

右御達之趣当地にてハ難分故本県の方へ申送御当地にて調可申依てハ私取計候通り尊前まで申上不都合ナキ様可致と之告諭ニ御座候既ニ先便申上置候得共猶又此ニ記ス私願候は衣食料謝金共拝借仕候筈就ては面倒ナシ貧窮ニて資送難成旨御願被下度候差出候願も廿日前後ニ極候由其節余ハ可申上候急便ニ付草々申上候頓首

九月十日

(抹消)
(香一郎)

御尊父様

武夫拜

御座下

此度而已半切ニ認候新聞五十五号附録次便ニ差上可申候以上

(長閑注記1)

(長閑注記2)

(長閑注記1)

「九月廿六日松岡練司方へ届来り尤新聞誌五十六号と五十九号迄四冊添来り」

(長閑注記2)

「右返書並十二号之返翰共取束十月五日此方第十三号を」
「以翌六日郵便へ差出也」

雑記 (長閑注記1)

先達て南亜墨利加州ペル国^(ペル)之船一艘横浜港ニ定泊候ニ付一美事出来有候抑此船支那へ行支那人三百余人を掠奪シ奴隷ト為んため本国□連行途中支那人を残酷之任方を以テ断首シ其外苦痛

21 明治5年9月10日 菊池長閑宛

第十一号

先般申上候官金拝借一件先日之雛形にて相願候ニ付猶又家之貧富吟味可致旨本属の方へ達ニ相成出張所へ呼出ニて参候所此度

ニ不堪海中ニ投溺候支那人もあり候由実ニ聞も恐ろしき残暴を働候然ル所颯風之為メか又ハ企望ありてか横浜へ入港致候ニ付き当校雇候教師ハウスと申者新聞紙ヲ書ん為メ其船ニ参色々探索致候所前条之趣略相分り候故賊船ニも可有之旨新聞紙ニ書載候より政府糾弾候故□リヒルト申亜墨利賢人是ハ名高法律家ナリヲ出シンペ

ル一方ハハリケンなる者是も名高法律家で英人ナリヲ雇差出神奈川県官員

出張之上横浜ニ於て大議論有之当校教師も証拠人とシテ宰判所

ニ出候実ニ皇国威名外ニ耀之始トテ未曾有之公事ニ打勝支那人

ヲ尽ク取戻しベルー船ヲ軍艦ニテ取囲発港候迄守護候由我国此

度右支那人ヲ召連広東迄使節被遣候由右趣意ハ今般其国人民ヲ

云々之危厄ニ救戻候以後右様之事無之様取締可被成且目今台湾

島洋名ホニ於テ支那人并琉球人ニペルー之為メ残暴ニ苦居候

間速ニ之ヲ救ヘン若不届次第も有之ニ於てハ琉球ハ我属国ナレ

ハ我国之ヲ救并ニ支那人之桎梏を解ヘントナリ被捕シ支那人

共ハ日本ヲ尊敬スルヲ実ニ神ニも愈り各国ニても此仁恵ノ処置

ヲ賛称セサルナン此度ハ支那政府ニテ台湾之働懸ヲ解サル能ハ

ス日本ニ礼ヲ述ヘシ台湾一件ニ付琉球人廿余人東京ニ到着ノ由也大愉快々々猶又大愉快

之事件起レリ去ル巳年朝鮮ニ被遣使節牢ニ被入三年間刻烈之取

扱ニ逢此度帰朝致不堪奮怒泣テ政府ニ訴出候ニ付問罪之師ヲ可

出ト廟堂日夜議論区々之由猶又使節軍艦ニ乗組近日朝鮮ニ発程

候由実ニ朝鮮之頑固ニシテ無礼なるヲ言語ニ絶候師一月ヲ不出

して彼之都府の帰落ハ掌中ニ可有と被存候併疲弊ニ疲弊を増す

而已ナラス如此頑固之人民ヲ服従セシムルハ一朝夕ニ可成ニ非

ス一揆鎮定ニ時日ヲ費其入用も不少候得ハ廟議烈決スルや償金

幾何為出候ても国ヲ押領して永代之寶ト為ニハ不若候猶落着之説も有之候ハ、早速報告可仕候何れ極意之所朝鮮頑物共ヲ根絶ニ致度候得トモ文明開化ノ世ニ有間敷候得は不得止事ニ候笑止々々

右ハ八月廿八日記す

此期日朝第八字発程之火輪車ニ乗横浜迄乗候成程其迅速ニして

便ナル実ニ可驚物ニ候朝六字過ぎ当校ハ人力車ニて品川入口蒸

気車発程所まで乗候所無程発候趣キニて車ニ乗待居候八字五分

ニ発定川崎まで十八分ニ着川崎まで之人々此処にて下る又十四分ニて神奈川ニ

着前之六分ニて横浜ニ到着致候前之場所々々ニて大凡五分も費

ス都合四十三分ニて往来致候横浜ハ三字之車ニて四十三分テ品

川へ戻候毎字横品両所ハ車出立仕候故一寸休日ニ横浜遊覧十分

出来候尤車三等ニて私乗候ハ下等代一分一朱ニ候得共人力車杯ハ

遙ニ優り少も窮屈なるヲ無之実ニ廉ニして迅速不可無物ニ御座

候其行道ハ丘ヲ切抜キ或ハ橋を小川に架し両面時ニハ稲田ヲ見

時ニハ右方ニ横浜へ青山ヲ詠め左ニ顧れハ海水連天舟舶之ニ点

ウチ窓ヨリ下ヲ見れハ草木形ヲ不為沿道之巡羅卒其小ナル少児

の如ニ見へ前ニ居かと思へハ勿焉と後ニ在り稲田之中農夫鋤ニ

倚テ車ヲ詠居候等其風景実ニ如画車之速ナルヲ此ニ明瞭之一証

あり人々窓ヨリ顔ヲ出駈と行先を詠候事風の為出来不申候○横

浜ニハ記載スヘキ事□□(ナシ)只管寂然タル者ニ候蒸気船□艘計入津

致居候併夷人館之壮麗ナル二等も当地ニ優りと覚え候

右ハ九月二日記す

右ハ九月二日記す

(長閑注記)
(朱書)
〔第十一号ニ附属也〕